

令和8年東根市議会第1回定例会 一般質問発言通告書

令和8年3月5日(木) 午前10時開議

番号	質問者	質問事項	質問要旨	答弁者
1	山本 和生 議 員	1. 大ケヤキを中心とした東根本町地区のまちづくりについて	<p>1. 本市は第2次東根市都市計画マスタープランにおいて、北部地域の地域づくりの目標として「来てよし!住んでよし!大ケヤキが笑顔を見守り進化・新化・深化し続けるまち」を掲げている。</p> <p>また、地域づくりの方針として城下町、原風景、観光資源、風情、親しみやすい身近な場づくりを推進するとしている。</p> <p>東根市の歴史、文化、伝統の拠点である東根本町地区のまちづくりについては、今後も住民と行政が一緒に推進していくべきである。</p> <p>については、特別天然記念物大ケヤキを中心にした東根本町地区の観光の振興と賑わいの創出のまちづくりについて、本市の考え方を伺います。</p> <p>(1) 大ケヤキ周辺の観光資源を活かした、本町地区の観光の振興によるまちづくりと賑わいづくりについて</p> <p>(2) 芸術・文化の振興、活動の推進の拠点としての東の杜の現状について</p>	市 長 教 育 長

番号	質問者	質問事項	質問要旨	答弁者
2	工藤みどり 議員	1. 放課後のこどもの豊かな時間の確立について	<p>1. 近年、共働き世帯の増加や核家族化の進行により、放課後の時間を家庭だけで支えることが難しい状況が広がっている。放課後児童クラブの待機児童への対応に加え、すべてのこどもが安全・安心に過ごし、豊かな体験ができる放課後の環境づくりが、地域全体の課題となっている。</p> <p>国は「放課後児童対策パッケージ2026」において、待機児童対策の強化とともに、放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した放課後施策の充実を打ち出している。</p> <p>こうした国の方針を踏まえ、次の点について伺う。</p> <p>(1) 放課後児童対策パッケージ2026を本市の放課後施策や学校現場に関わる方向性として、どのように受け止めているのか、基本的な認識を伺う。</p> <p>(2) 放課後の時間の質や安全・安心の確保を、学校教育との関係の中でどのように捉えているのか、見解を伺う。</p> <p>(3) 放課後の居場所づくりを進める上で、学校と地域、関係団体の間を調整するコーディネート機能について、どのように認識しているのか伺う。</p> <p>(4) 放課後子ども教室を学校やこどもにとってどのような意義を持つものとして捉えているのか、所見を伺う。</p> <p>(5) 放課後児童対策パッケージ2026を踏まえ、今後どのような姿勢で検討を進め、学校や地域と共有していくのか、考えを伺う。</p>	教育長
3	植松宏 議員	1. 今から備える人口減少の施策について	<p>1. 2014年に出された元岩手県知事・総務大臣増田寛也氏が中心として作成された「増田レポート」では全国で896の自治体が消滅しかねないとの予測であった。減少を続ける若年女性人口の予測から導き出されたデータであったが、本市においても昭和52年から増加していた人口が最近ではほぼ横ばいで推移しており、近い将来減少局面に入ると予測されている。1970年代前期の第二次ベビーブーム以降の出生数は右肩下がりである。本市の第5次総合計画の中でも「少子高齢化を伴う人口減少社会」「人口減少と少子高齢化への対応」は主要な課題の一つに挙げられているが、第5次総合計画も折り返し時期を迎え、以下の項目について市の考えを伺う。</p> <p>(1) 行政の広域化について</p> <p>(2) まちのコンパクト化について</p> <p>(3) 行政のDX化について</p> <p>(4) 公共を担う主体の拡大について</p>	市長

番号	質問者	質問事項	質問要旨	答弁者
4	深瀬 明理 議員	1. さくらんぼ栽培200年に向けた持続可能な産地づくりについて	<p>1. 「絶対成らせる！さくらんぼフォーラム」について どのように総括しているのか、またフォーラムを通じて浮き彫りになった「今後、市として取り組むべき課題」を何と捉えているのか、その理由も含めて伺う。</p> <p>2. 佐藤錦生産環境整備事業について 本事業の現状と現場の声をどのように捉えているのかについて伺う。また、県施策との連携について伺う。</p> <p>3. 果樹産地強化事業について 本事業の現状と課題、また、基盤強化でどのような成果を目指すのか伺う。また、県施策との連携について伺う。</p> <p>4. 樹園地継承について 現状と課題について伺う。また、今後の具体的な取組方針について見解を伺う。</p>	市長
5	森谷 俊員 議員	1. 部活動改革に係る検証と課題について	<p>1. 国の方針に基づき始まった部活動の地域移行について、本市は制度開始当初から迅速に体制整備を進め、現在では61団体にまで拡充するなど、先行的な成果を上げてきた。この点は評価するものである。</p> <p>一方で、制度開始から数年が経過し、参加費の差異、家庭環境による参加機会の差など、運用の中で浮かび上がってきた課題も見られる。</p> <p>制度転換を行政が主導してきた以上、その経過と結果を検証し、公平性と持続可能性の観点から次の段階へ進む必要があると考える。</p> <p>以上を踏まえ、以下について伺う。</p> <p>(1) 部活動改革の進捗状況</p> <p>(2) こどもたちの成長の機会の支え方について</p> <p>(3) 家庭環境による不均衡を生まない仕組みづくりについて</p>	教育長

番号	質問者	質問事項	質問要旨	答弁者
6	河村 豊 議 員	1. 東根市デジタル変 革 (DX) 推進計画 について	1. 市民サービスのデジタル変革の推進について (1) マイナンバーカードの普及促進 (2) 行政手続きのデジタル化 (3) キャッシュレス決済の対象拡大 (4) 情報発信の充実 2. 行政デジタル変革の推進について (1) 市民・職員の負担軽減効果 (2) 標準準拠システムへの移行と財政負担、リスク 管理体制 (3) 業務効率化による削減時間の再配分 (4) デジタル人材育成とセキュリティ対策 3. 地域デジタル変革の推進について (1) 公開データの拡充と今後の民間連携 (2) デジタルデバイド対策	市 長
		2. 東根市教育方針に ついて	1. 何を最重要課題と位置付けるか 2. AI 型学習教材導入について 3. スクールサポーター増員の狙い 4. 神町地区に整備される教育支援センターについて	教 育 長